

ゴウ
黒田剛
(14)

ミサキ
藤原美咲
(14)

—それで
話ってなに?
さっさと済ませて

彼氏いねえ
んだろ?
美咲

俺の女に
なれよ

私あなたみたいにな
気安く女子に触れる
クズに興味ないから

それにタバコ臭い
離れて
吐き気がする







お前停学が解けて
2週間も経ってない
だろ？



ぶん殴られる
前によ笑

はっ 雑魚は
引っ込んでけ

優斗…



今やめるのが
身のためだ

ユウト
佐藤優斗
(14)



また学校に
呼び出されても
いいのか

そういえば…
お前の父親かなり
厳しそうだっとな…
たしか軍に勤めてる
んだっけ？

もう一度停学
くらってみろ
次は退学処分だ



そんなにケンカ
売りたいなら
アタシが買って
やるって

リョウコ
高橋涼子
(15)

だから俺が選んだ道は
俺なりのやり方で
誰にも文句を言わせず
認めさせること

常に学業では
トップの成績を
維持し続けた上に

スパarring
したいなら
いつでも来な

ガ
シ

ぐう…

うんざりするほど
付き合ってるからさ!

グ
イ
ッ

これ以上
醜態晒したく
ないなら
タップしな

クソがアツ!

涼子…
もういい…
大丈夫だから

え?
あ…
うん



おい剛!!
またお前か?!
今すぐ職員室に
来い!!

誰がためえの指図
なんか受けるか
このハゲ

な...なんだと
この礼儀知らずが!!

おい 優斗...
これで終わりだと
思うなよ

いつか必ず
叩き潰してやる

だけど...
その時の俺は
知らなかった

このガキ!!
明日保護者を
連れてこい!

あーあ 残念
やつと面白く
なってきたとこ
だったのに

俺たちの
悪縁は

まるで
運命みたいに
断ち切れないもの
だったことを...

あの子は昔から
変わらないわね…
小さい頃から
いつも優斗のこと
実の姉みたいに
守ってくれて…

涼子ちゃんから
心配だって
連絡があったわよ…
あなたが
電話に出ないって

ああ
そうなんだ

ええ…
一度連絡して
あげなさい

それと…
担任の先生とも
お電話したんだけど
あの子…黒田くん
学校辞めたそうよ

そういえば
あの子も
お父さんと
二人暮らしだって
聞いたわ…

ユカ
佐藤由佳
(33)

なんだか可哀想ね…
ちゃんと面倒を見て
もらえなかったの
かしら…

全部アイツ自身が
やってきたことだ
なら全ての責任は
アイツにある

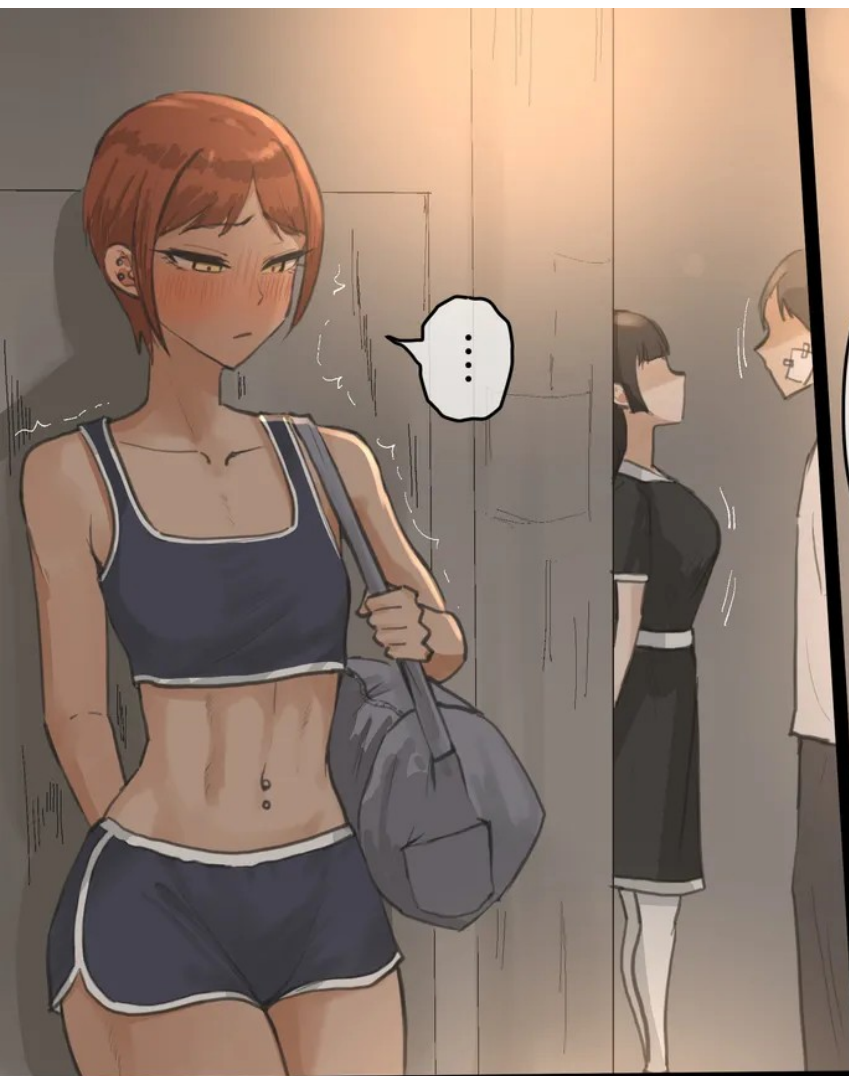
環境のせいに
するなんて
卑怯者の
することだ…

…お母さんね
優斗のそういうところ
本当に立派だと思う
いつも感謝してるわ…

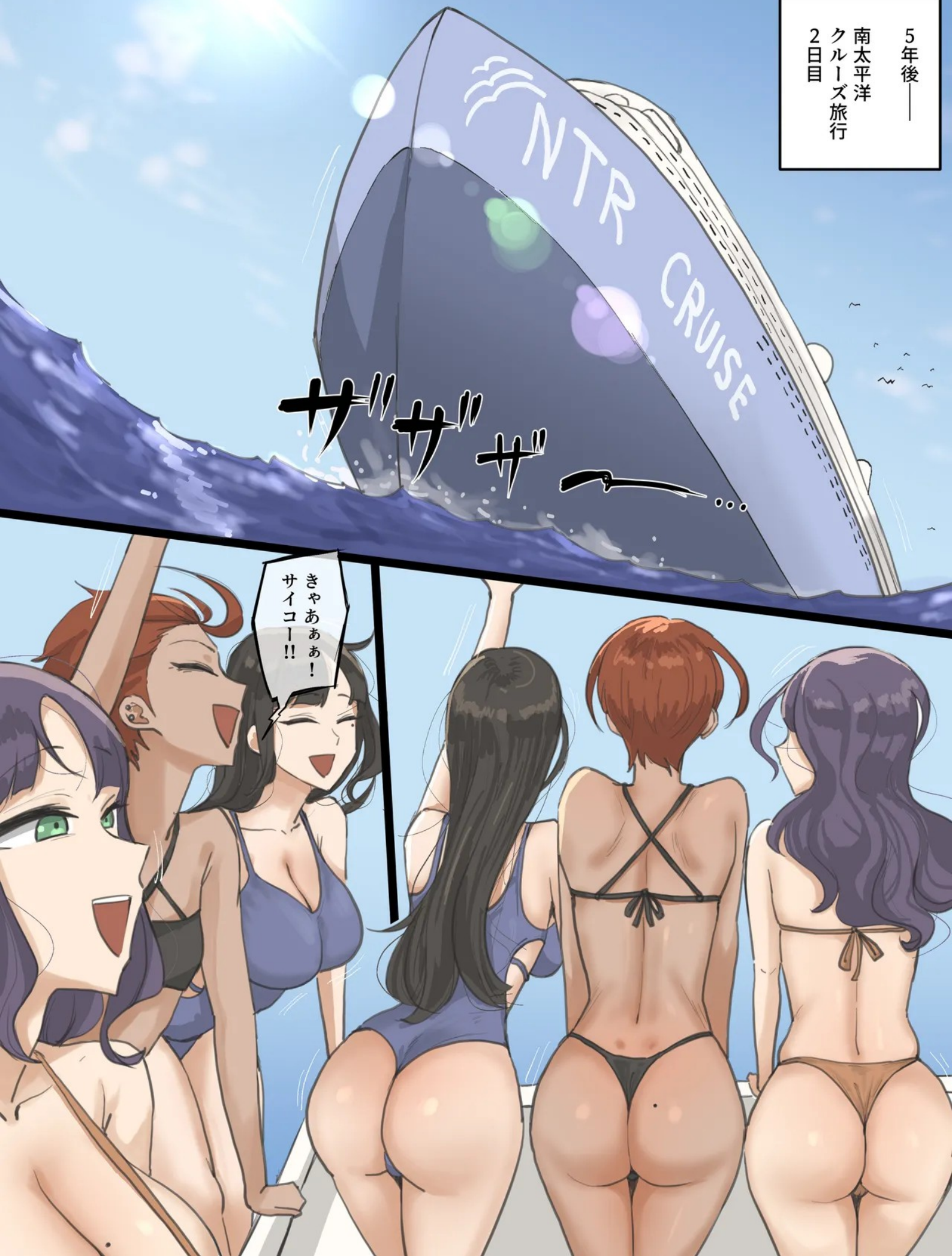








5年後—
南太平洋
クルーズ旅行
2日目





はあ：優斗!!
シラけること
言わないの!
アタシが直々に
スタイリング
したんだから

自分の理想を
俺の母親に
押し付けるの
やめろ



私は
気に入ってるわよ?
久しぶりに
昔を思い出すし:
フフフ

いくらなんでも
母さんの水着
大胆すぎないか
...?



おばさま
すごく綺麗で
ずっとお若く
見えます

あらほんと?
ほら優斗
美咲ちゃんも
褒めてくれてる
じゃない

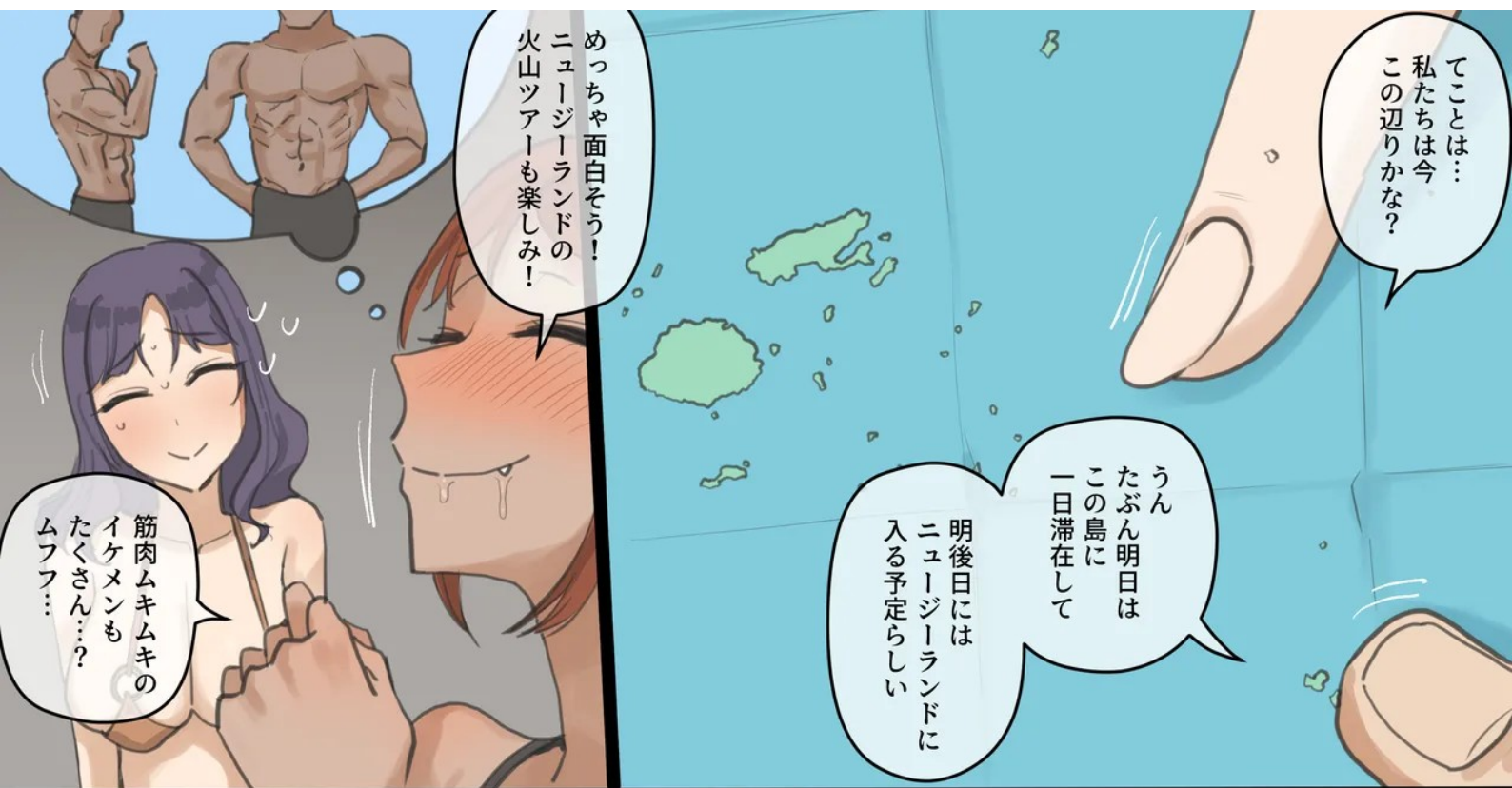
ほんとセンスない
なんでこんな奴が
美咲の彼氏で
いられるのか
理解に苦しむわ

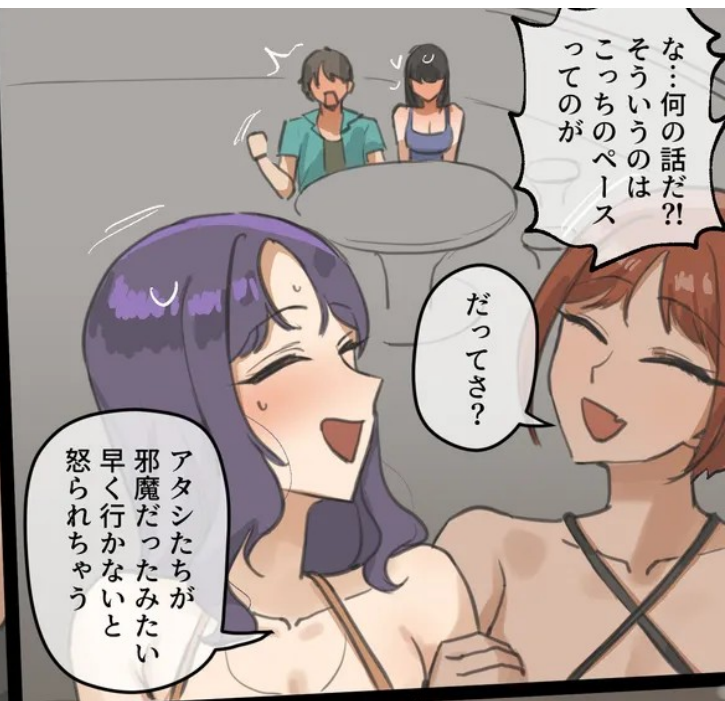
うっ:
うるさいな!
それより
明日滞在する
島の計画
立てようぜ



なんだとっ?!
アタシが
貧乳だって
言いたいの?!

な：なんで
そうなんだよ?!





にしても…
こんなところで
会うとはな

このっ…!
いきなり
何すんのよ!!

おっ…美咲か
相変わらず
イイ女だな笑
結局優斗と
くっついたのか
ウケるな

そんで
こっちの女は?
お前らの姉か?

こりやまた
暴力的な
パイオツ
してんなあ

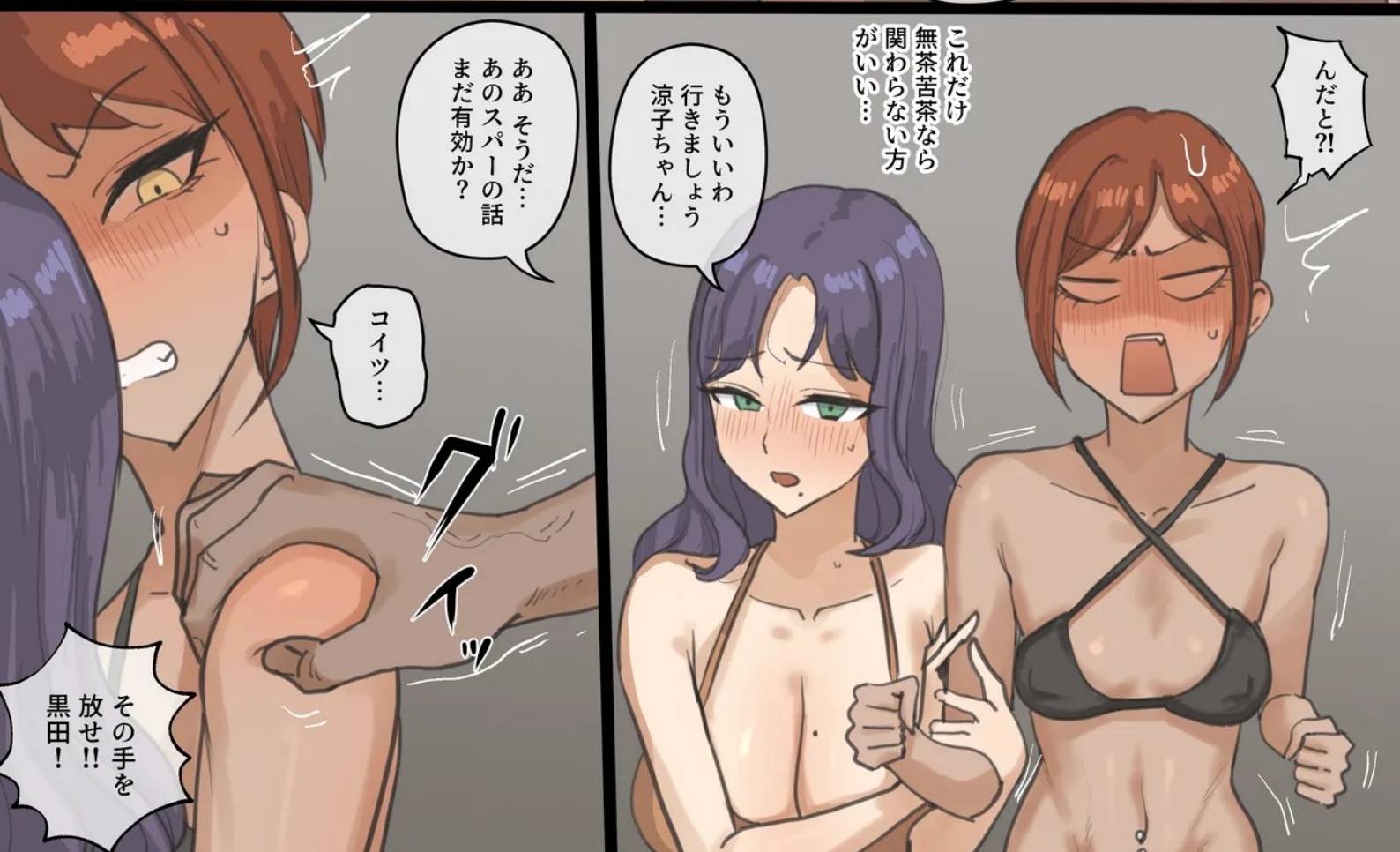
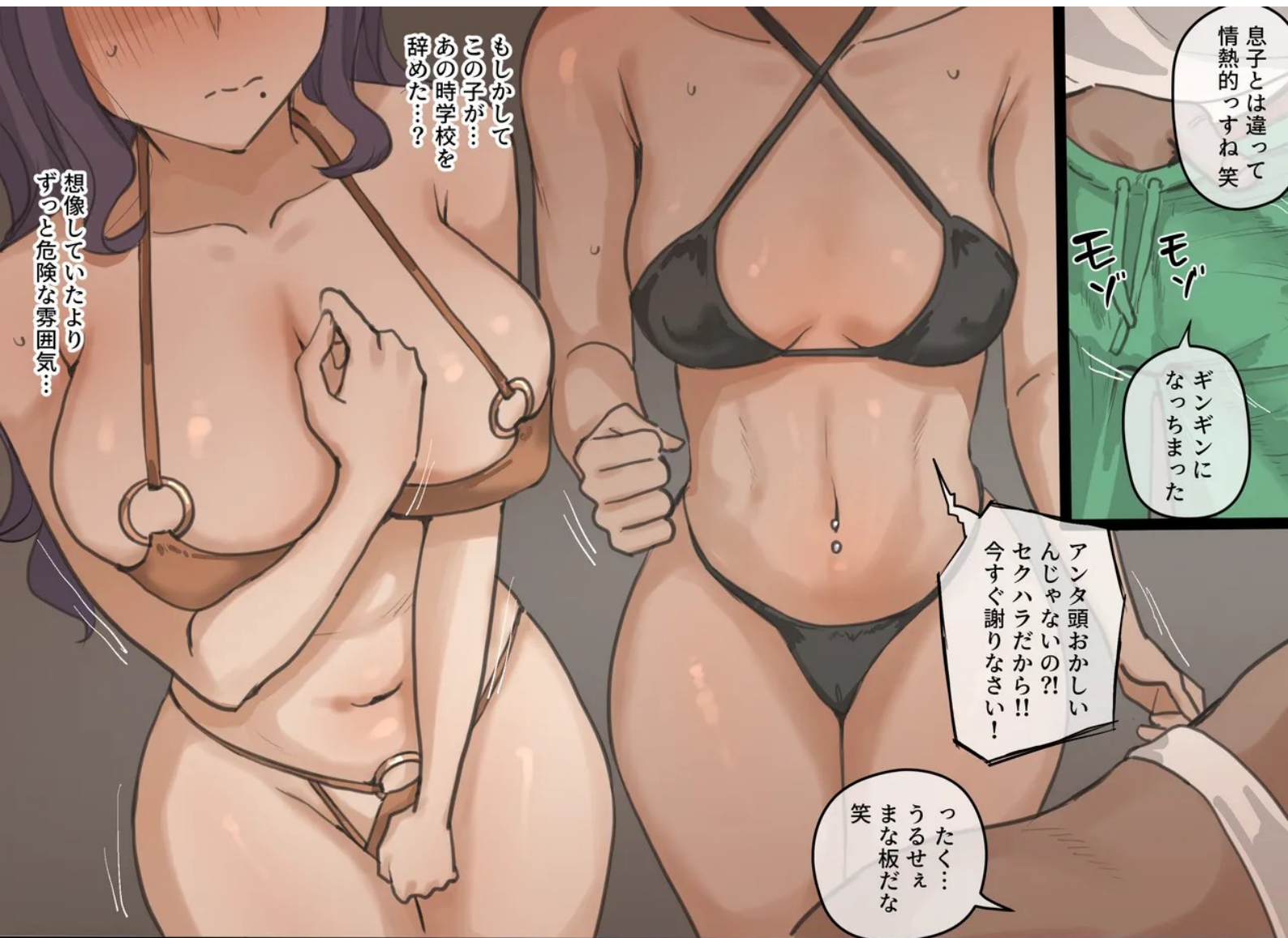
おいっ彼女は
優斗のお母さんだ
言葉に気をつけろ!

は?
優斗のお袋?
マジかよ笑

な…何
この硬い身体…
本当にコイツ
あの黒田なの?

コイツ…
見ない間に
随分とデカく
なったじゃない

フー…



乗客の皆様は船長より
お知らせいたします
ただいま近隣海域にて
大規模な地震が発生
当海域に津波警報が
発令されました

緊急事態発生！
緊急事態発生！

ただちに客室へ
お戻りください
甲板への移動は
固く禁止いたします

もう一度
彼女たちに
触れてみる
次は……

なんだよ
この海流の動き……！

緊急事態発生！
緊急事態発生！

え？
いきなり何
津波？

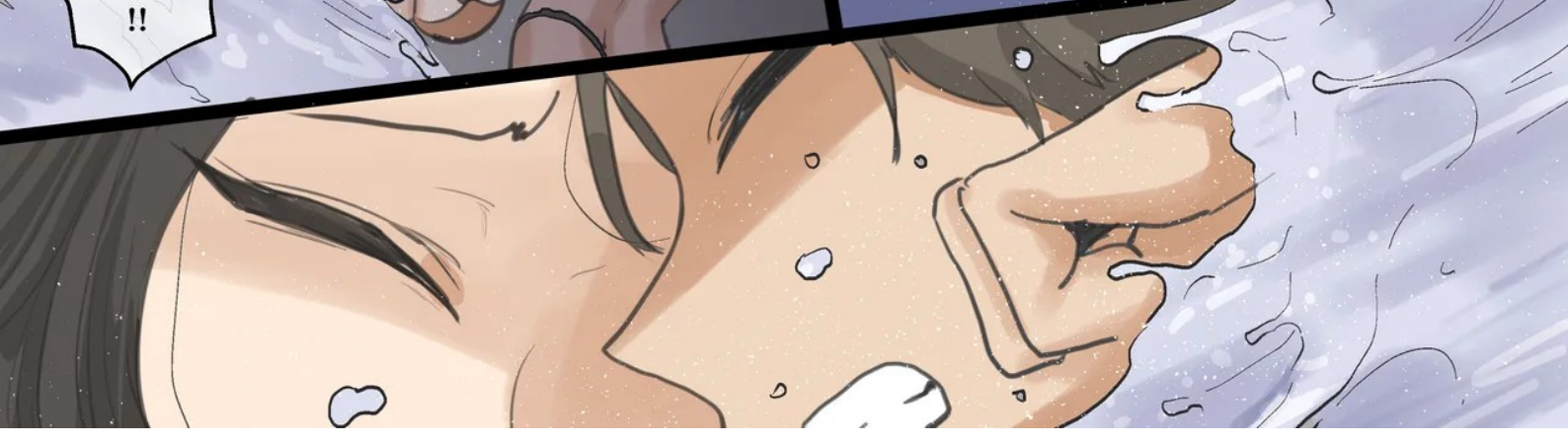
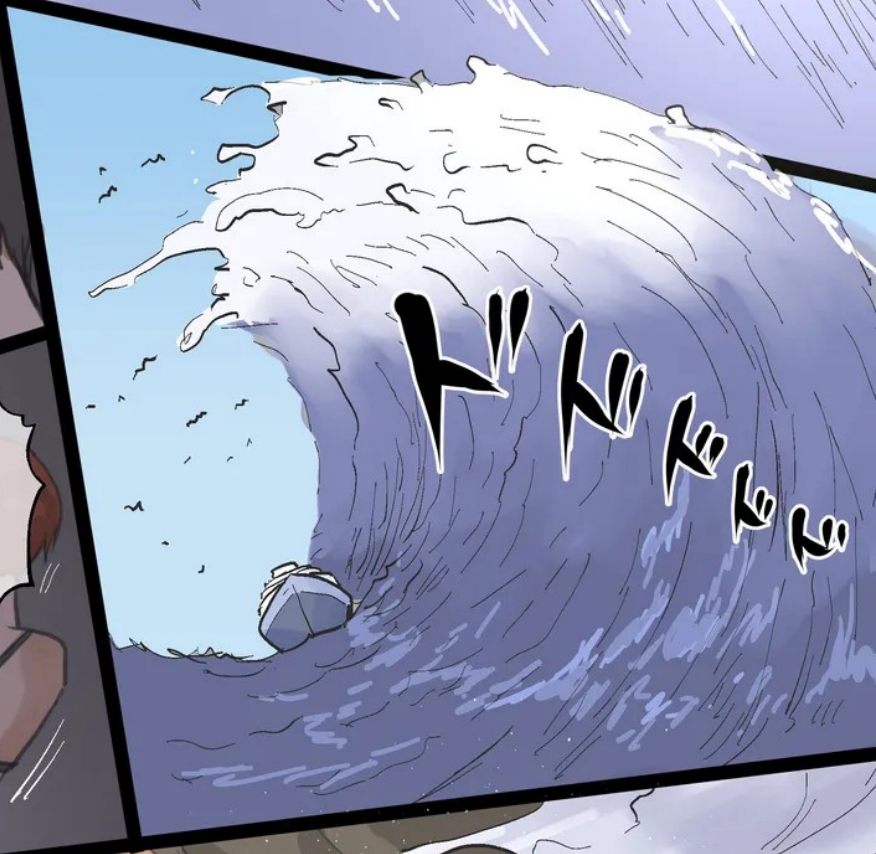
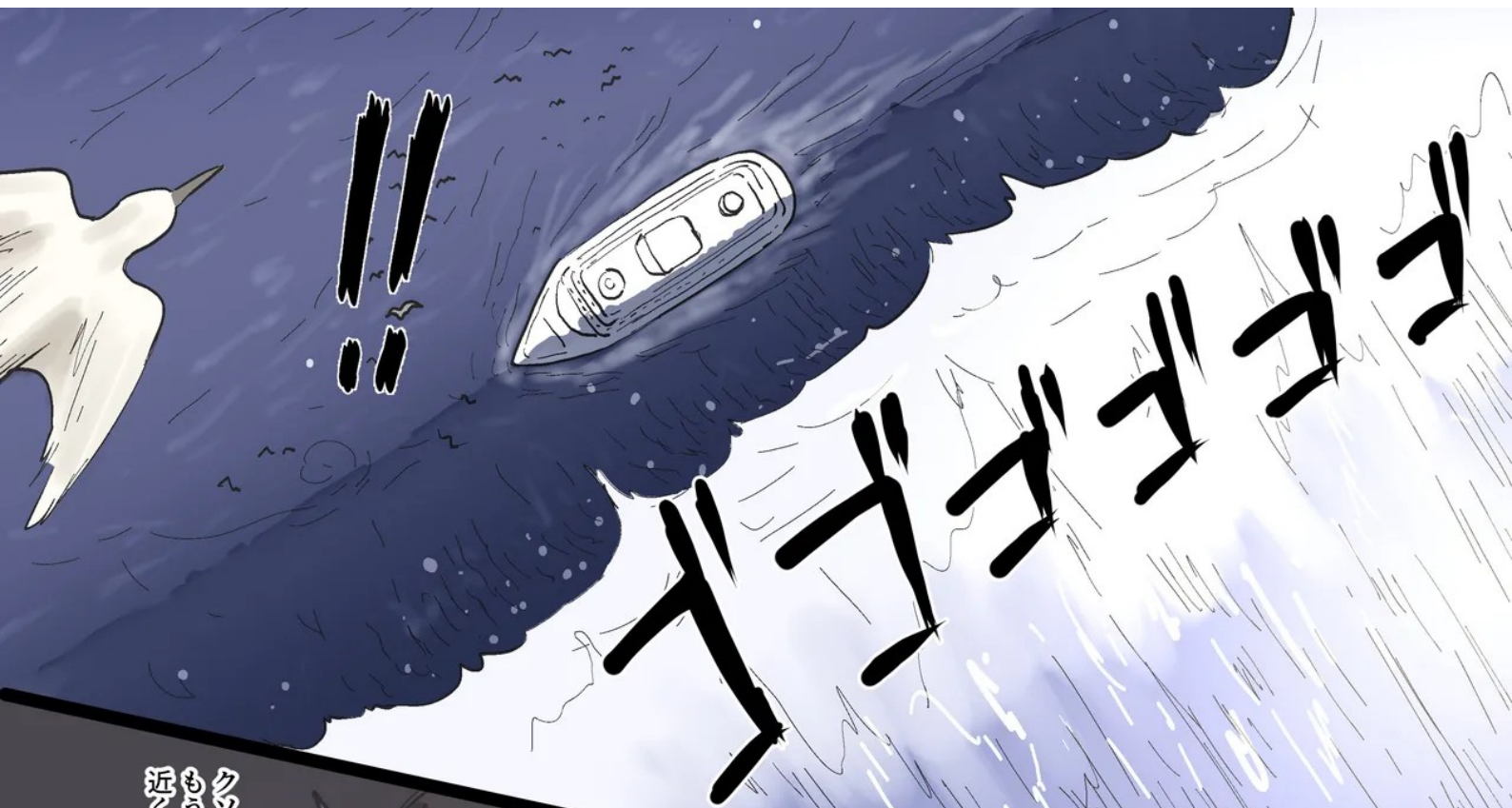
乗組員の指示に従い
救命胴衣の着用準備を
してください！
繰り返し申し上げます

ははっ……
ドッキリか
なんかだろ……

これって……
もしかして……
とんでもない……

キャー
うわあああ……！！
あ……あれっ！

ザー
ザー
ザー



DAY-01

事故発生から
6時間後

まったく
生きてるってのは
最高だな…
だろ？

んっ…でも…
本当に見たの…？
嘘じゃないわよね？

間違いねえって…
木箱に掴まった
美咲と優斗の二人が
流されてった

はあ…
はあっ

あ
あっ

ザ
ザ
…

ザ
ザ
…

だから
安心しなつて
アイツらは
絶対生きてるさ

涼子ちゃん…
ごめんなさい…
手を離しちゃって…
無事かしら？
お願いみんな
生きていて…

んう…

かあ…!!
お婆さんの
Kカップおっぱい
マジで極上だな…
もちもちで…
弾力も最高だぜ…

ムニョ〜

ムニョ〜

なんですって?!
約束が違うじゃない!

胸を好きに
させてくれたら
明日すぐにあの島へ
連れて行くって…!

あー…でも
やっぱ今日は
無理したからか
ちと疲れたわ
回復するには
ここで一週間は
休まねえとな?

ギョ〜

お婆さん
ウブなんだな
ククッ

たかが脂肪の塊を
揉ませただけで
俺をコキ使うつもり
だったのか？

多野郎...

はぁ...

ん...

あ...

スリ

スリ

お...乳首ビンビンに
硬くなってんぜ♥
ほらここでやめたら
おばさんも
物足りねえだろ？♥

待ちなさ...

あ...あ...あ...

俺は命の恩人だぜ？
全てを差し出したって
足りねえくらいなのに
デカイ乳に反して
器はちっせえなく

いいから
俺を喜ばせてみる
俺もそれ相応の
お返しをしてやる
ギブアンドテイクが
俺の信条なんぞな

ぎゅっ

あ...

ぐりぐり



おら...
さっさと
股開けよ♥

もう
びしょ濡れに
なってるんだろ

あんっ

待って!
黒田くん...

ああ...?

それじゃ...口で...
口でしてあげる...
それで十分でしょ?
ね?

いらねえな

いやっ...

俺が今
気になってんのは
ここなんだよ...♥

あのクソ優斗を
産んだ
この場所がな





な...なに?

ボロン♡

この
大きさ?



悪いけど...
こんなの
全部は入らないわ
半分くらいなら...

バカ言うな
お前経産婦だろ?
この穴から
ガキひりだした
くせによ

そ...それと
これとは
ちがっ...♡
違うわ!!

マンコ緩めろって
そんなガチガチじゃ
入らねえだろ? 笑

ドキ♡

ドキ♡

そんな
ビビんなよ
お婆さん
ククッ

ドキ♡

こんな暴力的な
サイズ...
初めて見た...

あ...
あっ...
来る...

すぐイかせて
やるし
絶対気に入るぜ
俺のチンコ♡



ああ…
マンコ
きつつ！

はあっもう…
これ以上はムリ…
奥届いてるから…

いちいち騒ぐな
黙って俺のチンコ
啜えてろ！
子宮の奥まで
エグってやつから

んぐう…
んがッ

お
おッ

一体どこまで
入ってくるの？

し…子宮が
持ち上げ
られてる？！

クソっ…
どんだけ締まり
ヤバいんだよ
このマンコ…

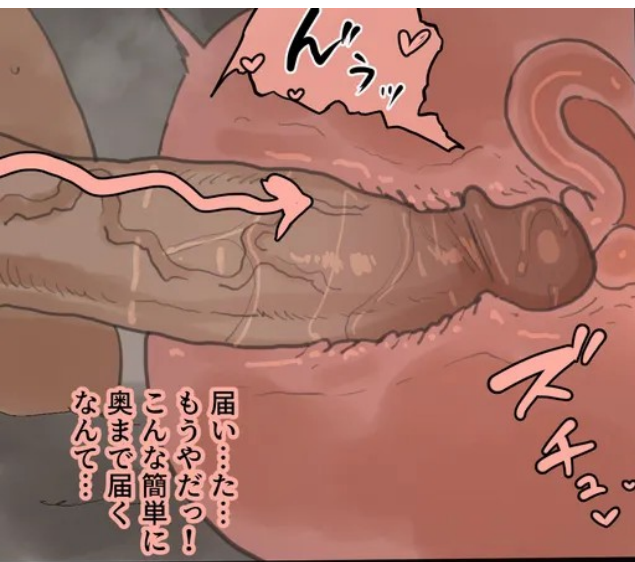
すぐイっちゃ
まいそうだ…
ああ…

お
おッ
おッ

あ
あッ
あッ

ぎゃう

どちゃ



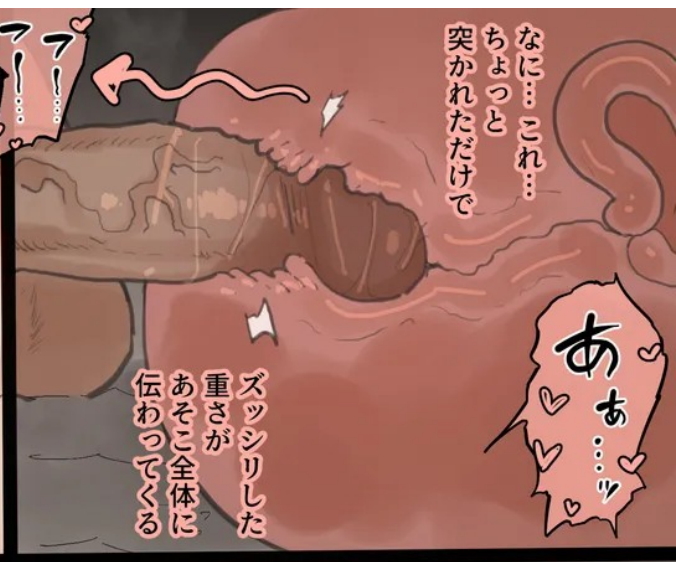
んうッ

届い...た...
もうやだっ!
こんな簡単に
奥まで届く
なんて...

ズキッ



ああ...
また入って
くる...



なに...これ...
ちよつと
突かれただけで

ああ...ッ

ズッシリした
重さが
あそこ全体に
伝わってくる



あーイキそう
ヤバいわこれ
気に入った笑

俺のチンコどーよ?
最高だろ? ん?
由佳ちゃん彼氏いんの?
俺の女になれよ

由佳ちゃんだなんて...
気安く呼ばないで!!

ふざけるな!!

おおおッ

ああッ
ん

あッ



ごめん
由佳ちゃん…
俺たち別れよう

18歳で優斗を
身籠ってすぐ
あの人は
私たちを捨てた

あの子を快樂の
おまけかのように
扱った彼のせいで
私は男性不信に陥った



そうしているうちに
女としての自分を
少しずつ忘れていった

だけど…
私は幸せだった
優斗は私の期待を
遥かに超えて
すすくと
よく育ってくれた



私に言い寄ってくる
数え切れないほどの
男たち…

男なんて結局…
皆同じだわ



母さんまだ若いなら
寂しくないのかなって
母さんの人生だって
大事なんだから…

今になって
ようやく少し
勇気が湧いて
きたのに…



私の外見しか
見てないんだから

えっ？

なによこれ
おろして!!
あっ♡

うるせえな
黙ってマンコ
締めとけ!

ものすごい力!!
私かなり重いのだ
オモチャ扱い
されてる...

本当に優斗と
同じくらいの
歳なの？

この体位で
やったことある?
由佳ちゃん♡

やだあ...っ
こんなの
耐えられない!!
またイっちゃう

あああくる♡
だめだめだめ♡
さちやうう♡

だめっ!!
やめでえ!!
お願いっ!!

突くたびに
潮吹いてんじゃん
ちゃんと水分温存
しとけよ





優斗...

あーあーん
あーん
あーん

いっやっ
はなれっ
あーん

あーん
あーん
あーん

あーん
あーん
あーん

ああ...
中に出さ
れてる...

やあ...
だめ...

んんん
んんん
んんん

んんん
んんん
んんん

熱いのぜんぶ...
奥に注がれてる...



DAY-02

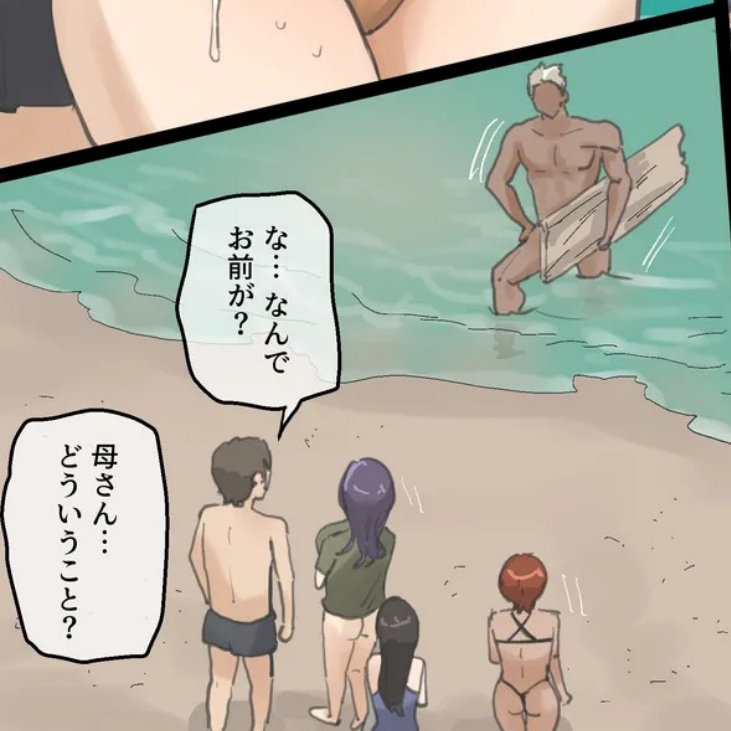
母さん…
どうやって
ここまで？
怪我はない？

ええ
大丈夫よ

あなたたちこそ
怪我はない？
みんな無事で
よかった

母さん!!

おばさん!!



な…なんで
お前が？

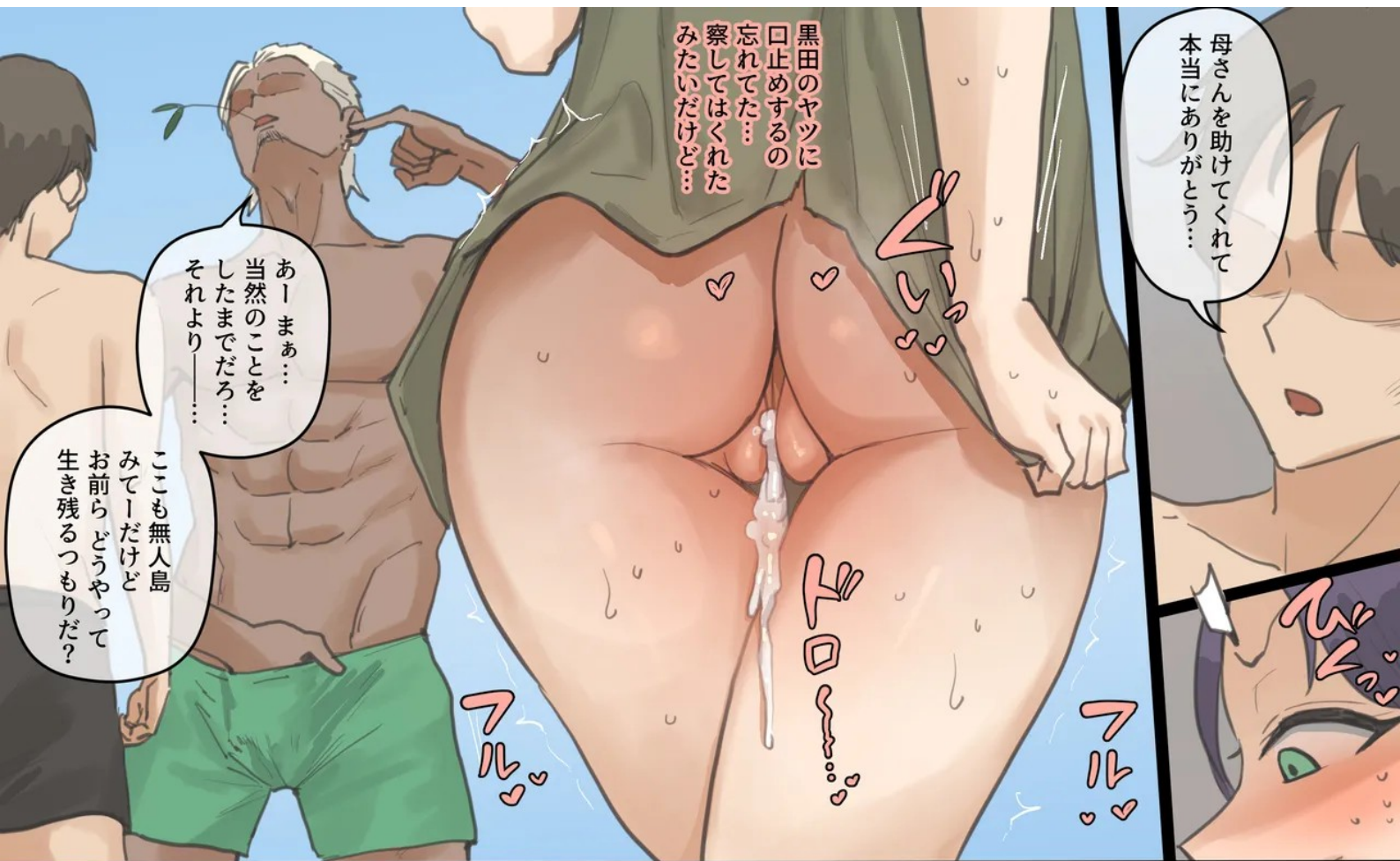
母さん…
どういこと？



オイオイ
全員生きてん
のかよ笑

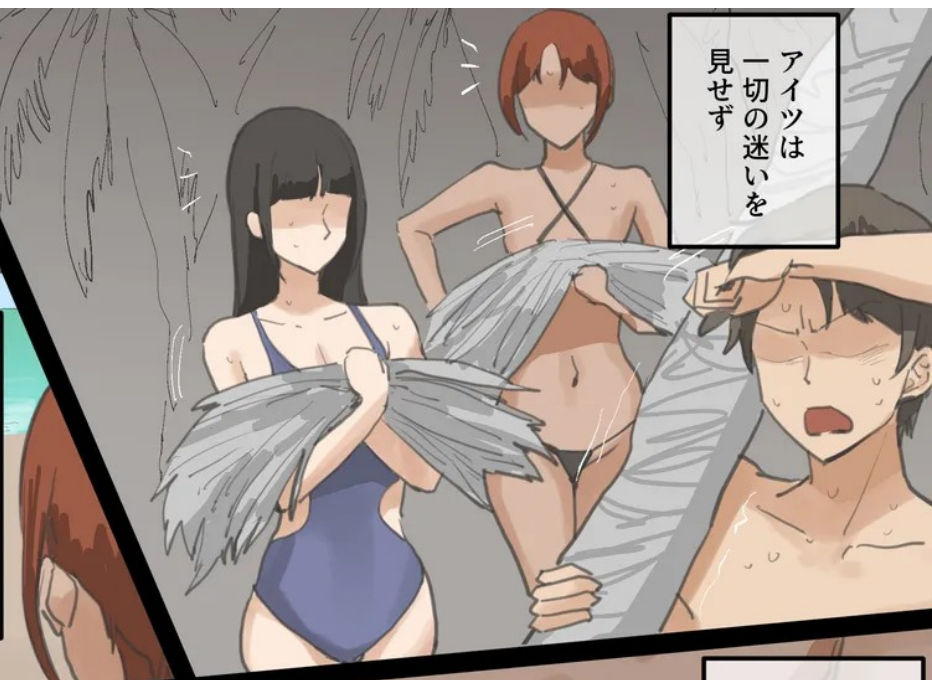
これぞ
奇跡って
ヤツか？







まるで何度も
こうした危機を
乗り越えて
きたかのように
場を仕切っていた



アイツは
一切の迷いを
見せず



俺が本で学んだ
知識なんて
この場所では
ほとんど
役に立たない



アイツが現れてから
彼女たちは
みるみる落ち着きを
取り戻していった



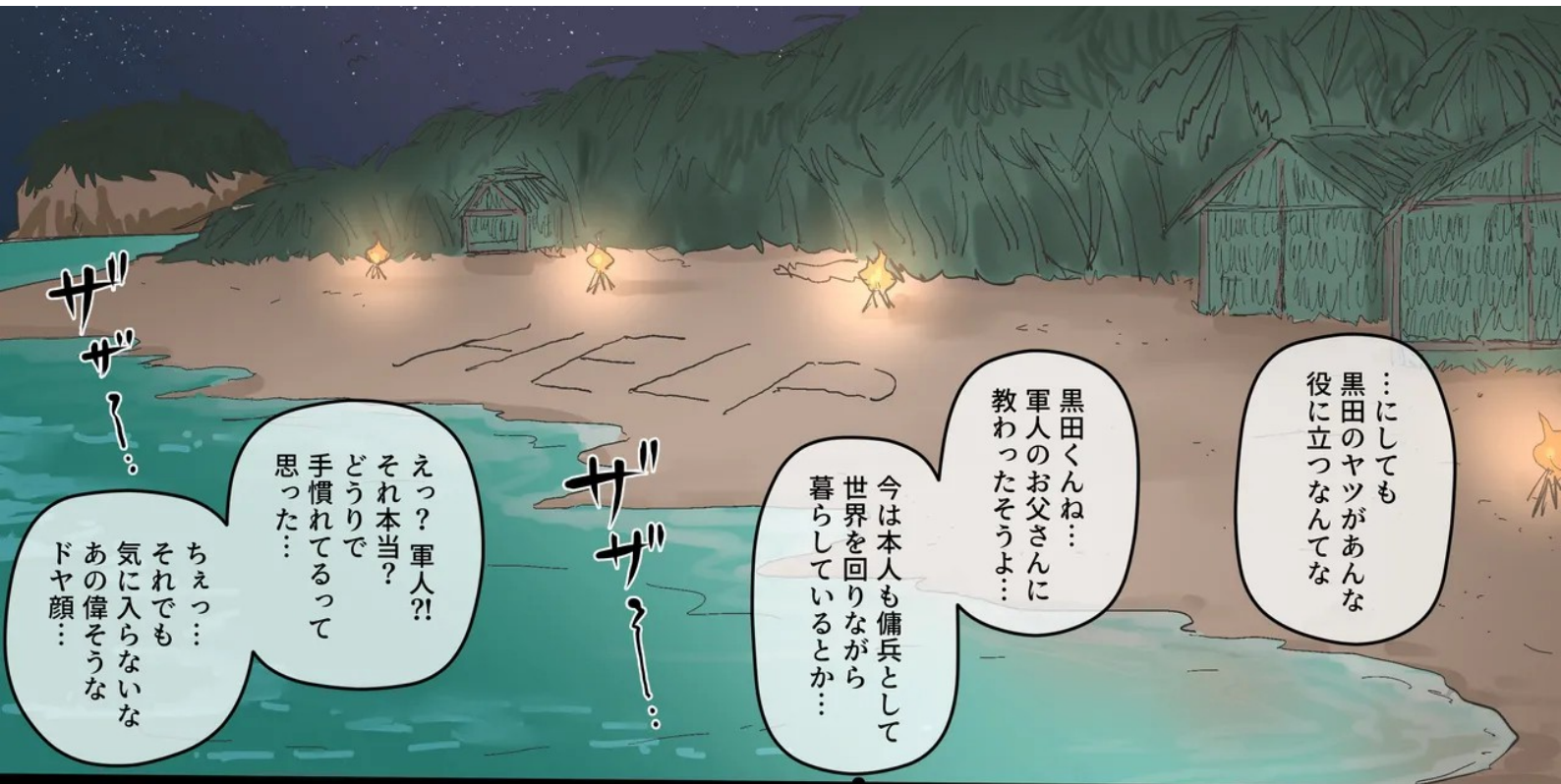
そして俺は
自分自身について
改めて考えさせられる
ことになった



もしかしたら
過去の記憶に囚われて
アイツをちゃんと
見ていないのは
俺自身なのかもしれない…

れろっ
れろっ
れろっ

アイツは…
完全に違う人間に
なって帰ってきた



…にしても
黒田のヤツがあんな
役に立つなんてな

黒田くんね…
軍人のお父さんに
教わったそうよ…

今は本人も傭兵として
世界を回りながら
暮らしているとか…

えっ？軍人?!
それ本当?
どうりで
手慣れてるって
思った…

ちえっ…
それでも
気に入らないな
あの偉そうな
ドヤ顔…



おい優斗…
これで終わりだと
思うなよ

いつか必ず
叩き潰してやる



おばさん
アタシね…
ポジティブに
考えるよ

救助隊が来るまでの
素敵なバカンスを
過ごすって
考えることに…





待ちくたびれたぜ
アイツらは寝たか？

ほら
さっさと脱いで
こっち来いよ♡

うおっ♡
由佳ちゃんの
身体エツロ♡♡
やっぱ10代で
子供産むだけは
あるわ



昨日夜通しやって…
今日は二日中働いたのに
どんな体力してるの？

私を見るなり
勃起させて…
これが若さ
かしら…

うるせーっ！！







黒田くん！
一回セックス
したくらいで
私を軽く見ないで

いい？
はつきり言っておくわ…
私は優斗の母親なのよ！
アナタなんかより
ずっと大人なんだから！

もう二度と気安く
由佳ちゃんだなんて
呼ばないで
おばさんって
呼びなさい！

約束どおり
今日2回目の射精
だったんだから
私はもう帰るわ

ん？
そうだったか？
ああそ…
夕方フエラで
一発抜かれてた
んだっけな…

じゃあ
仕方ねえ…♥

えっ？



射精しないで
セックスする
しかねえな...

この...っ!
クノ野郎!!

俺はセックスしねえと
眠れねえんだよ♥
だからやろうぜ
由佳ちゃん♥

クリがぶつくり
勃ってんぞ
由佳ちゃん♥
大の大人がそんな
赤ちゃんみてえに
泣いていいのか?
ん?♥

クンニなんて
恥ずかしくて
死にそう...!!

返事するまで
止めねえからな♥

ああッ
ん...ッ

あッ

ああ...ッ
そこだめッ

ああッ
ん...ッ

ったく...
マジで頑固
だな♥

いやよっ!
絶対に約束は
守って!♥

今日は
だめえっ♥

ああだめ
もうムリ!!
イクっ♥
イっちゃう!!♥

クソっ
仕方ねえ...
おらいけっ



イけっ
!!!!!!

ああ…結局…
また今日も
やってしまった

この男のセックスは…
強引で圧倒的で…
女を無理やりイかせて
しまうセックス…

おおお
おおお
おおお

死んでも
認めたく
ないけど…



長い間
男を避けてきたせい
…だけじゃない…
この男のセックスは
明らかに他と違う

毎晩こんな快楽に
慣らされてしまったら
絶対に危険…

奥まで満たしてくる
この男のペニスは…
抜けたときにこそ
空っぽになった寂しさを
思い知らせてくる…

おお
おお
おお

だから
今日は耐えようと
必死だったのに…



今日一日中
この男とのセックスを
思い出していた
優斗と一緒にいるとき
でさえも…

この歳になって
いくつて感覚を
初めて知ったくらい
スゴかったから…

おお
おお
おお